

生徒から
告られたあ!?

—ああ

まじかよそれ
今そーゆーの
ヤバいんじゃないの?

その子
可愛い?
胸でかい?

…食いつき
いいな…

坂崎まさか
もう手え
出したん?

…いや
じゃなくて

—アレ?

でも
お前の
勤務校は
確か—

男にこんな事
言われても

気持ち悪い
だけですよね

すみません



そりゃ
ちよつと
驚いたけど…

…いや



伝えたくて
…

すみません

俺はあまり
動揺せずに
すんだ



彼に
「好きです」と
告白された時も



視線を感じて
振り返る時



好意をもって
もらえる事は
有り難いけど

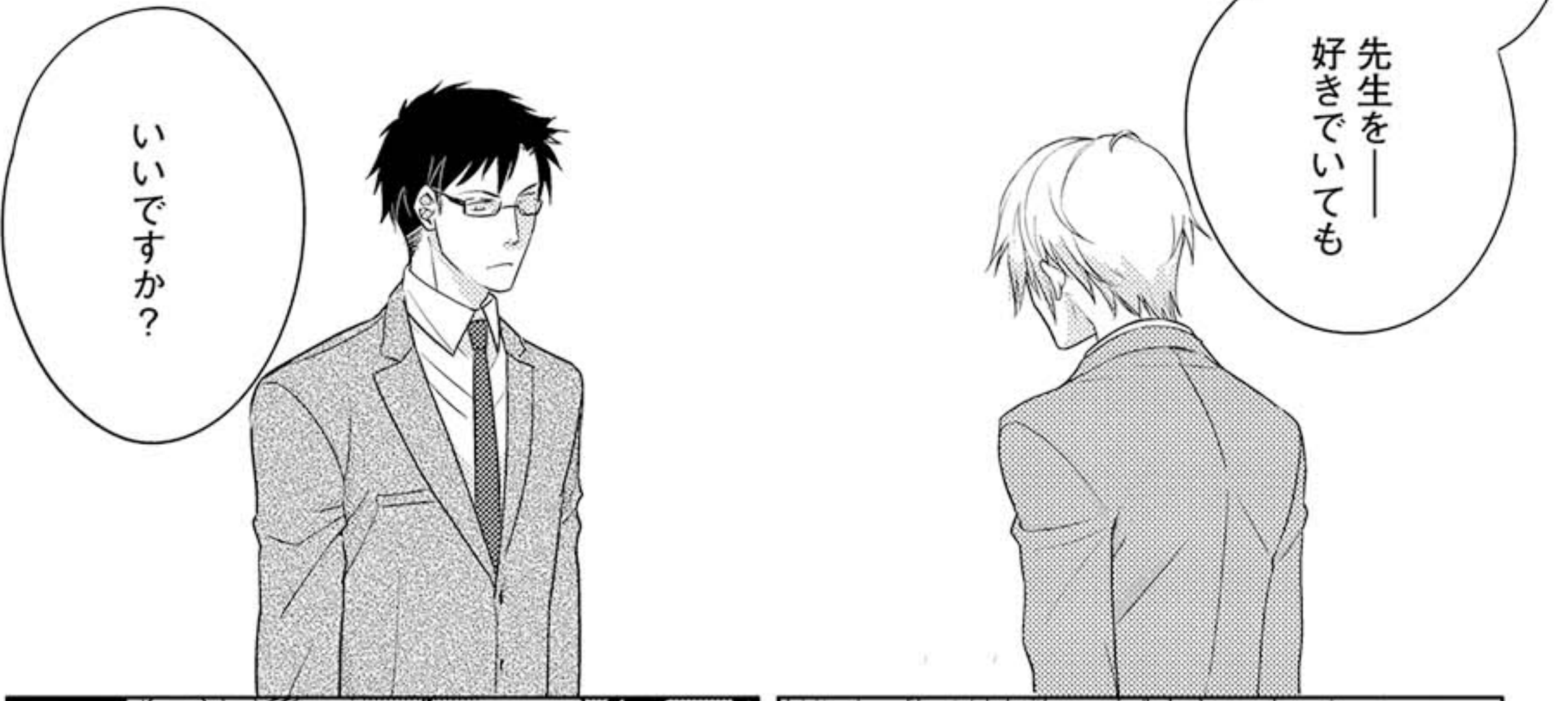
——南森



お前の気持ちに
応えるとか
は——

そんなん
じゃなくて

——ただ



ただ

先生を——
好きでいても

いいですか？



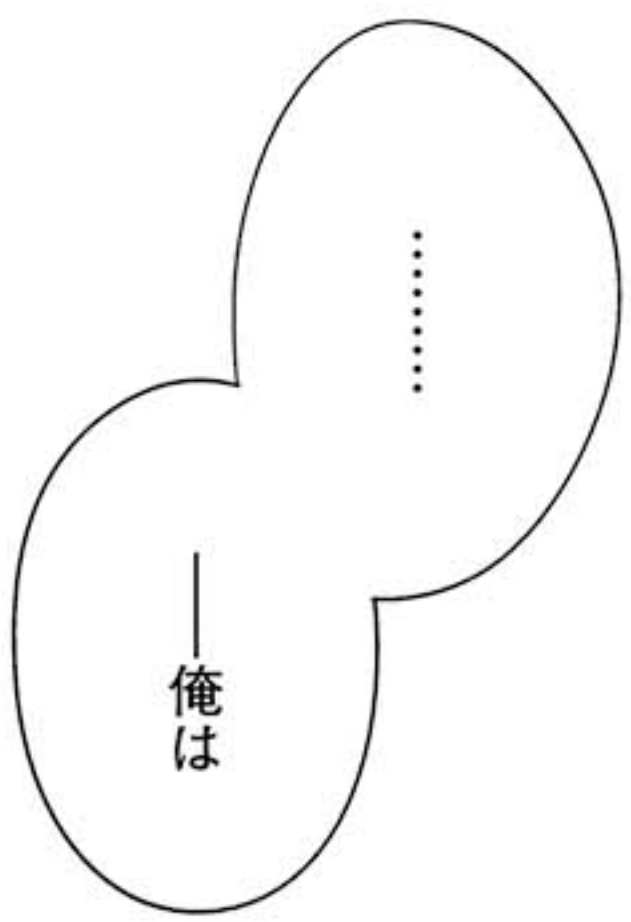
——あ……



誰が誰に

どうい
う
気持ち
を
持とうが

それは自由だと
思うが



——俺は



ありがとうございます

男子生徒

—おい
お前らんゴト
だからって

あ
悪い悪い

や〜
教師って
色々あんなあ

南森先生



…んで
坂崎センセは
どーすんのよ
ソレ

あ?

その子結構
本気なんじゃ
ないん?

—いや
どーにも
できないし

どーする
つもりも
ねーよ…

南森は

南森

俺が副担任と
世界史を受け持つ
21Dの生徒

理系教科の成績は
下から数えた
方が早い

ぶっきらぼうだが
明るいし
よく友人達と
つるんでる

俺が知って
いるのは
その程度



我ながら

随分と曖昧な
言い回しで
逃げたとは
思うけど

しかも
男である彼の
気持ちに
応える事も

生徒で

ましてや完全に
拒絶する事も
難しいところで

ああ言うより
他に選択肢が
なかった

先生

これから
昼飯すか？

HEVEN